

## 第2章 調査結果の概要



第2章では、本調査のまとめとして、3つの調査結果を踏まえ、男性の性別役割分担に関する意識についての項目及び男性の性別役割分担意識に影響を及ぼす要因の検討、さらに、男性の性別役割分担意識に関連する男性の日常生活の意識や行動について検討することとした。

## 1. 男性の性別役割分担に関する意識についての調査項目

ここでは、男性の性別役割分担に関する意識についての調査項目の結果を紹介する。なお、本調査は、男性の性別役割分担意識について検討するものであるが、本調査の目的が「男性が抱えやすい日常生活の意識・行動と男性の性別役割分担意識との関連性を検討すること」にあるため、日常生活の意識や行動と関連すると思われる男性の性別役割分担意識を項目として設定しており、一般的な男性の性別役割分担意識とは異なる項目もある。本調査においては、一般的に男性の性別役割分担に意識として考えられる「男は仕事、女は家庭」のような性別役割分担意識を表す項目のうち、男性の日常生活の意識や行動に関連すると思われる意識を調査項目として設定している。また、一般的な性別役割分担意識だけではなく、「男は弱音を吐かない」「男は仕事の業績が大事」といった性別役割分担意識に深く関連すると思われる男性の意識についても検討対象としている。したがって、本調査の男性の性別役割分担意識の調査項目は、男性の日常生活の意識や行動に関連すると思われる意識に着目して設定するものであり、その内容としては、男性の性別役割分担意識及び性別役割分担意識に深く関連すると思われる男性の意識が含まれる。

### (1) 男性の性別役割分担に関する5つの意識

本調査では、男性の性別役割分担に関する意識として次の5つの意識に着目し、項目を設定している。なお、これらの意識については、既存調査の結果から男性の日常生活の意識や行動に関連すると思われる性別役割分担に関する意識についての項目が作成され、因子分析(図表3-1-4-2参照)により抽出された因子ごとに項目を分類している。それぞれの意識について、以下に説明する。

#### 主導権役割に関する意識(主導権役割志向)

因子分析により抽出された以下のような項目をまとめて「主導権役割志向」と名付けている。主導権役割志向とは、例えば「妻や恋人には、できれば自分の意見に従ってもらいたい」「(結婚したら)妻には自分の(家の)習慣(やり方)に合わせてほしい」「妻や恋人が自分の思い通りにならないと、イライラすることがある」「結婚生活の重要事項は、妻ではなく自分が決めたい」「家庭のこまごました管理は、妻にしてほしい」といった意識があり、男女の関係性において重要事項を決めるのは自分にあり、妻や恋人を従わせるという傾向や、家事や介護は妻にまかせたいという志向性を示している。

#### 経済的役割に関する意識(経済的役割志向)

因子分析により抽出された以下のような項目をまとめて「経済的役割志向」と名付けている。経済的役割志向とは、例えば「(結婚したら)家族を養い守るのは、自分の責任である」「子どもに手がかかるうちは、妻に働いてほしくない」「(結婚したら)妻にはあまり稼いでもらう必要はない」といった意識

があり、家族を経済的に支え、家族を守る役割は自分にあり、妻に働いてもらうことはあまり期待しないという志向性を示している。

#### 日常生活の依存に関する意識（日常生活依存志向）

因子分析により抽出された以下の項目をまとめて「日常生活依存志向」と名付けている。日常生活の依存志向とは、例えば「家族の洗濯物を干すことは、自分がするような仕事ではない」「スーパーマーケットや商店で野菜や肉、魚などを買うことに抵抗がある」「妻が仕事を持つのは、家族の負担が重くなり、よくない」といった意識があり、家事をはじめとする生活全般について家族に依存し、自分がやることを避ける志向性を示している。

#### 社会的役割に関する意識（社会的役割志向）

因子分析により抽出された以下の項目をまとめて「社会的役割志向」と名付けている。社会的役割志向とは、例えば「仕事では競争に勝ちたい」「仕事で業績を上げ評価されたい」といった意識があり、仕事における業績について評価されたい、社会的に活躍したいという志向性を示している。

#### 私的感情の抑制に関する意識（私的感情の抑制志向）

因子分析により抽出された以下の項目をまとめて「私的感情の抑制志向」と名付けている。私的感情の抑制志向とは、例えば「悩みがあっても、気軽に誰かに相談しない」「自分の素直な気持ちを他人には話さない」「他人に弱音を吐きたくない」といった意識があり、悩みを他人に打ち明けたり、相談したり、弱音を吐いたりといった、プライベートな感情を見せない志向性を示している。

WEB 調査図表 3-1-2-1、図表 3-1-4-1、図表 3-1-4-2

## （２）項目別の主な結果

男性の性別役割分担に関する意識についての質問項目について、主な結果について紹介する。

#### 主導権役割志向に関する項目について

主導権役割志向については、全般的に未婚者よりも既婚者のほうが意識が強い傾向がみられている。また男性の収入や、配偶者（既婚者）の収入との関連がみられており、男性の収入が増加すると肯定する者が増加し、配偶者の収入が増加すると否定する者が増加するといった特徴のある項目が多い。また、男女差について、「家事を妻がすること」については、男性よりも女性のほうが肯定する者が多い傾向がみられた。一方、「妻や恋人に従ってもらいたい」「妻や恋人が思い通りにならないとイライラする」については、男性よりも女性のほうが否定する者が多くみられ、男女の意識ギャップがみられる項目であった。

#### ・家事は主に妻にしてほしい

男性全体の約 50%が「家事は主に妻にしてほしい」と回答している。また、そのような役割期待は未婚者よりも既婚者に高く、既婚者の中では年代が高くなるほどその傾向は強くなっている。収

入との関連がみられており、男性の収入が高くなるほど肯定する者が増加する傾向がみられているが、既婚者の場合に配偶者の収入が高くなるほど、否定する者が増加する傾向がみられている。なお、女性調査の結果において、「家事は主に自分がしたほうがよい」という意識は約 60%に上り、男性よりも女性のほうが高い傾向が示されている。

WEB 調査図表 3-1-2-3、図表 3-1-2-4、図表 資料 1-1-1、図表 資料 1-1-2

・妻や恋人には、できれば自分の意見に従ってもらいたい

男性全体の約 35%が肯定しており、未婚者よりも既婚者に肯定する者が多い傾向がみられている。また、収入との関連がみられており、男性の収入が高くなるほど肯定する者が増加する傾向がみられているが、既婚者の場合に配偶者の収入が高くなるほど、否定する者が増加する傾向がみられている。なお、女性調査の結果において、「自分は夫の意見に従うほうがよい」という意識は男性に比べて少なく、婚姻状況にかかわらず 2 割程度である。

グループインタビュー調査において、そのような意識が強いケースもみられていたが、「数十年の結婚生活の中から、互いに仲良くやっていくにはそうした意識は阻害要因となることを学び、そのような意識がほとんどなくなった」という意見も聞かれた。

WEB 調査図表 3-1-2-9、図表 3-1-2-10、図表 資料 1-4-1、図表 資料 1-4-2、  
グループインタビュー調査(1) 主導権役割志向

・妻や恋人が自分の思い通りにならないと、イライラすることがある

男性全体の約 33%が肯定しており、否定する者は約 27%となっている。また、未婚者よりも既婚者に肯定する者が多い傾向がみられている。年代別にみた結果からは、20 歳代の既婚者において肯定する者が多い傾向がみられている。なお、女性調査の結果において、「自分(妻)が夫の思い通りにならないと、夫はイライラしても仕方がない」という意識は低く、全体の約 14%にとどまっております、否定する者は約 56%と過半数に上っている。このような意識は、男性と女性において、意識ギャップが生じやすいことが考えられる。

WEB 調査図表 3-1-2-11、図表 3-1-2-12

・妻には自分の(家の)習慣(やり方)に合わせてほしい

男性全体の約 31%が肯定しており、未婚者よりも既婚者に肯定する者が多い傾向がみられている。既婚者では約 35%が肯定しており、否定する者は約 22%となっている。年代別にみた結果からは、既婚者の 20 歳代と 60 歳代において肯定する者が多い傾向がみられている。また、女性調査の結果において男性の結果と比較すると、既婚者の男女差がみられており、女性の既婚者においては、否定する者(夫の家の習慣に合わせてほうがよいとは思わない者)が約 31%と、男性既婚者の約 22%よりやや多い傾向にある。

WEB 調査図表 3-1-2-15

・父親が仕事中心に生活することは、家庭の幸せにつながる

男性全体の約 26%が肯定しており、未婚者よりも既婚者に肯定する者が多い傾向がみられている。

特に既婚者の60歳代において、肯定する者が多く約42%となっている。また、収入との関連がみられており、男性の収入が増加するほど肯定する者が増加する傾向がみられており、既婚者の場合に配偶者の収入が高くなるほど、否定する者が増加する傾向がみられている。

WEB 調査図表 3-1-2-17、図表 資料 1-8-1、図表 資料 1-8-2

#### 経済的役割志向に関する項目について

経済的役割志向に関する項目のうち、特に「(夫は)家族のために仕事は継続しなければならない」「一家の大黒柱は自分(夫)である」とする項目は、男女ともに肯定する者が多く、否定する者は少ないことが特徴的であった。また、経済的役割志向に関する項目については、配偶者の収入との関連がみられており、配偶者の収入が高くなると男性の経済的な役割意識は低下する傾向が示されている。また、男女差について、「(結婚したら)妻にはできるだけ稼いでもらいたい」については、男性よりも女性に肯定する者が多かったが、「子どもに手がかかるうちは妻に働いてほしくない」については、男性に比べ女性のほうに肯定する者が多くみられ、男女の意識ギャップがみられていた。

#### ・(結婚したら)家族のために仕事は継続しなければならない

男性全体の約77%が肯定している。年代別にみると、特に未婚者の20歳代及び既婚者の20歳代～40歳代に強く肯定する者が多い傾向がみられている。また、収入との関連がみられており、100万円～500万円未満までは収入が増加するほど強く肯定する者が増加するが、500万円以上では収入が増加するほど強く肯定する者は減少する傾向がみられている。さらに、既婚者の場合に配偶者の収入が500万円を超えると強く肯定する者が減少する傾向がみられている。なお、女性調査の結果においても、「夫は家族のために仕事は継続しなければならない」という男性への経済的役割期待は高く、特に既婚者においては年代を問わず8割超が肯定しており、未婚・既婚ともに否定する意見はほとんどみられていない。

既存調査においても「生活費を稼ぐのは夫の役割」「生活費の確保は主に夫が行うのが理想」とする質問に肯定する意見が多く、本調査と同様の傾向が示されている。また、結婚相手に求める条件についても、男性に「経済力」を求める女性は多い。

WEB 調査図表 3-1-2-21、図表 3-1-2-22、図表 資料 2-1-1、図表 資料 2-1-2、  
既存調査図表 3-3-2-7、図表 3-3-2-8、図表 3-3-2-23

#### ・(結婚したら)一家の大黒柱は自分である

男性全体の約75%が肯定している。未婚者よりも既婚者に肯定する者が多い傾向がみられており、既婚者では年代を問わず肯定する者が8割超に上っている。また、収入との関連がみられており、収入が増加するほど肯定する者が増加する傾向にあり、既婚者の場合に配偶者の収入が増加するほど、否定する者が増加する傾向がみられている。なお、女性調査の結果においても、「一家の大黒柱は夫である」とする回答は全体で8割超に上っており、特に既婚者では年代を問わず8割超が肯定している。

WEB 調査図表 3-1-2-23、図表 3-1-2-24、図表 資料 2-2-1、図表 資料 2-2-2

・家族を養い守るのは、自分の責任である

男性全体の約 75% が肯定している。未婚者よりも既婚者に肯定する者が多い傾向がみられており、既婚者では 30 歳代でやや少ないものの、年代を問わず肯定する者が約 8 割に上っている。また未婚者の 60 歳代も肯定する者が多い傾向にある。収入との関連がみられており、収入が増加するほど肯定する者が増加する傾向にあり、既婚者の場合に配偶者の収入が高くなるほど、否定する者が増加する傾向がみられている。なお、男女の意識を比較した結果から、このような意識は男性に強い傾向が示されている。

なお、グループインタビュー調査においては、経済的役割志向が強い意見もあったが、現在の雇用状況では男が家族を養うのは無理があることから、ライフステージや状況により役割を柔軟に変化させるほうがよいとする意見も聞かれていた。

既存調査においても「男は妻子を養う責任がある」という質問に対して、20 歳代以降は 8 割超が肯定しており、同様の結果が示されている。

WEB 調査図表 3-1-2-25、図表 資料 2-3-1、図表 資料 2-3-2、  
グループインタビュー調査 (2) 経済的役割志向、既存調査図表 3-3-1-2

・子どもに手がかかるうちは、妻に働いてほしくない(ほしくなかった)

男性全体の約 40% が肯定している。また、婚姻状況別には顕著な差異がみられていないが、年代別にみると 20 歳代と 60 歳代において、肯定する者が多い傾向にある。また、既婚者の場合に配偶者の収入や就業形態に関連がみられており、配偶者の収入が 500 万円未満までにおいては、収入が高くなるほど否定する者が増加する傾向にある。配偶者の就業形態について「年金生活」「専業主婦」の場合に、肯定する者が増加する傾向が示されている。なお、このような意識は、男性の母親のこれまでの就業形態も関連している様子が示されており、男性の母親が「公務員・公社等の正規職員」「正社員」「非正規雇用者」の場合には、否定する者が増加する傾向が示されている。女性調査の結果において、「子どもに手がかかるうちは、自分は働きたくない」に肯定する者は全体の約 55% を占めており、男性よりも高い傾向がみられている。

WEB 調査図表 3-1-2-27、図表 3-1-2-28、図表 資料 2-4-1、図表 資料 2-4-2、図表 資料 2-4-3

・(結婚したら)妻には、できるだけ稼いでもらいたい

肯定する者は、男性全体の約 18%にとどまり、否定する者は約 33%となっており、妻にこのような役割を期待する者は少ない。年代別にみると、既婚者は年代が低いほど肯定する者が多い傾向にあり、既婚者の 20 歳代においては、約 33%が肯定している。また、男性の収入との関連がみられており、収入が増加するほど否定する者が増加する傾向にある。なお、女性調査の結果において、「(結婚したら)自分もできるだけ稼ぎたい」という意識は男性の回答に比べて高く、全体で約 47%に上っている。

グループインタビュー調査からは、夫がしっかりと経済的役割を担うことが大切であるという意見が聞かれている。

WEB 調査図表 3-1-2-29、図表 3-1-2-30、図表 資料 2-5-1、

## グループインタビュー調査(2) 経済的役割志向

### 日常生活依存志向に関する項目について

日常生活依存志向については、男性全体として否定する者が多く、買い物や洗濯について抵抗がない様子が示されている。既婚者の場合、配偶者の就業形態による差異がみられており、配偶者が「正社員」「公務員・公社等の正規職員」「非正規雇用者」の場合には否定する(依存しない)者が多い傾向にある。

#### ・妻が仕事を持つのは、家族の負担が重くなり、よくない

肯定する者は、男性全体の約 13%となっており、20 歳代と 60 歳代において、肯定する者がやや多い傾向がみられている。また、既婚者の場合に配偶者の就業形態による差異がみられており、配偶者が「専業主婦」「年金生活」「自営(農林漁業)」の場合には肯定する者が多く、「正社員」「公務員・公社等の正規職員」「非正規雇用者」「自営(商工サービス業)」の場合には肯定する者が少ない傾向にある。

WEB 調査図表 3-1-2-31、図表 資料 3-1-2

#### ・家族の洗濯物を干すことは、自分がするような仕事ではない

男性全体の約 12%しか肯定しておらず、全体の約 57%が否定している。また、婚姻状況別では肯定する回答が既婚者に多く、年代別では年代が高くなるほど否定する者がやや減少する傾向にある。なお、女性調査の結果においても、「夫がするような仕事ではない」とする回答は全体の約 22%にとどまっており、否定する者は全体の約 49%に上っている。しかし、家族と同居している男性が、実際に洗濯物を干すことがあるかどうかについて質問した結果からは、ほとんどしない者は全体の 3 割超となっており、特に未婚の 20 歳代～40 歳代では 5 割前後がほとんど行っていないことがわかる。なお、既婚者の場合、配偶者の就業形態による差異がみられており、配偶者が「公務員・公社等の正規職員」「正社員」「非正規雇用者」の場合には否定する者が多い傾向にある。

グループインタビュー調査においては、20 歳代の既婚者に、家事を積極的に行っている様子が聞かれていた。また、妻が専業主婦の場合には家事は妻の役割となりやすい様子が示されている。

なお、既存調査において「夫と妻の家事関連活動時間に占める妻の分担割合の推移」をみると、夫婦の家事分担は妻の有業・無業にかかわらず妻が 9 割程度を担っている。洗濯や買い物といった家事は自分のする仕事ではないとする回答は少なかったが、実際に妻との比較でどのくらい分担しているかについては、検討が必要である。

WEB 調査図表 3-1-2-33、図表 3-1-2-34、図表 3-1-5-7、図表 資料 3-2-2、  
グループインタビュー調査(3) 日常生活依存志向、既存調査図表 3-3-2-2

### 社会的役割志向に関する項目について

社会的役割志向については、年代による差がみられる項目である。特に「仕事で業績を上げ評価されたい」「仕事では競争に勝ちたい」については、年代が低いほど肯定する者が多く、年代が高くなるとともに減少する傾向がみられている。また、職種による差異もみられており、「専門知識をいかした仕事」「管理的な仕事」「営業・販売の仕事」の場合に、そのような意識が強くなる傾向にある。また、収



入や労働時間との関連もみられており、いずれも増加するほど肯定する者が増える傾向にある。なお、女性調査の結果との比較では「仕事で業績を上げ評価されたい(夫には評価されてほしい)」について、男性は年代が高くなるにつれてそのような意識は低下するが、女性は年代が高くなっても低下していないことから、年代の高い層で男女の意識ギャップが生じやすい。また、特に未婚の30歳代、40歳代においては、いずれの項目も男女の意識ギャップが生じており、未婚男性は未婚女性の期待に比べ「業績・評価」や「競争」に対する意識が低く「収入が低くても興味のある仕事をしたい」という意識が高い傾向がみられる。

・仕事で業績を上げ評価されたい

男性全体の約63%が肯定しているが、婚姻状況別にみると、未婚者よりも既婚者のほうが肯定する者が多い傾向にあり、年代別にみると年代が低いほど肯定する者が増加する傾向がみられている。また、職種による差異がみられており、「専門知識をいかした仕事」「管理的な仕事」「営業・販売の仕事」の場合に、肯定する者が多い傾向が示されている。なお、女性調査の結果において、「夫には仕事で業績を上げ、評価されてほしい」という意識は、全体の約73%に肯定されている。年代別に男女を比較したところ、男性の場合は、年代が高くなるほど肯定する者が減少する傾向がみられていたが、女性の場合は年代が高くなっても肯定する者は減少せず、年代を問わずそのような意識が高い様子が見られており、特に年代の高い層に男女の意識ギャップがみられている。

グループインタビュー調査において、このような意識は、職種や業績評価のあり方により変化するという意見が聞かれている。

WEB調査図表 3-1-2-37、WEB調査図表 3-1-2-38、図表 資料 4-1-2、  
グループインタビュー調査(4) 社会的役割志向

・たとえ収入が低くても、興味のある仕事をしたい

男性全体の約49%が肯定しているが、婚姻状況別にみると、既婚者よりも未婚者のほうが肯定する者が多い傾向にある。また、年代別にみると、20歳代や60歳代に肯定する者が多い傾向にある。収入による差異もみられており、収入が高くなるほど否定する者が増加する傾向が示されている。婚姻状況別、年代別に男女を比較したところ、全体として男性のほうが女性に比べて肯定する傾向にあるが、特に未婚者の30歳代、40歳代において男性は約5割が肯定しているが、女性の場合は3割程度にとどまっており、この層の男女には男性の仕事に対する意識について顕著なギャップがみられている。

WEB調査図表 3-1-2-39、WEB調査図表 3-1-2-40、図表 資料 4-2-1

・仕事では競争に勝ちたい

男性全体の約42%が肯定しているが、婚姻状況別にみると、未婚者よりも既婚者のほうが肯定する者が多い傾向にある。また、年代別にみると、20歳代では婚姻状況にかかわらず肯定する者が多い傾向がみられる。また、未婚者の30歳代～50歳代では肯定する者が少ない傾向にある。なお、収入や労働時間による差異もみられており、収入が高くなるほど肯定する者が増加する傾向が示され、労働時間が長くなるほど強く肯定する者が増加する傾向が示されている。職種による差異がみられ

ており、「専門知識をいかした仕事」「管理的な仕事」「営業・販売の仕事」「サービスの仕事」「農林漁業の仕事」の場合に、肯定する者が多い傾向が示されている。婚姻状況別、年代別に男女を比較したところ、未婚者の30歳代～50歳代について男性は肯定する者が2～3割程度であるが、女性は4割強となっており、特に未婚者の30歳代～50歳代の男女に意識ギャップがみられる傾向にある。WEB調査図表3-1-2-41、WEB調査図表3-1-2-42、図表資料4-3-1、図表資料4-3-2、図表資料4-3-3

#### 私的感情の抑制志向に関する項目について

私的感情の抑制志向については、年代による差がみられる項目である。年代が低いほど私的感情を抑制しない者が多く、年代が高くなるとともに私的感情を抑制する傾向がみられている。また、男女の意識ギャップが強くみられており、男性は私的な感情を抑制する傾向にあるのに対し、女性は、自分の夫には私的な感情を抑制してほしくないと考える傾向にある。

#### ・自分の素直な気持ちを他人によく話すほうである

肯定する者は、男性全体の約34%にとどまっている。婚姻状況別にみると、未婚者よりも既婚者のほうが肯定する者が多い傾向にあり、年代別にみると、年代が高くなるほど肯定する者が減少する傾向にある。収入との関連がみられており、収入が増加するほど肯定する者が増加する傾向にある。なお、女性調査の結果においては、「夫には、自分の素直な気持ちを他人に話してもらいたい」という意識は約60%に上っており、男女の意識ギャップがみられている。

WEB調査図表3-1-2-43、図表3-1-2-44、図表資料5-1-1

#### ・他人に弱音を吐くことがある

肯定する者は、男性全体の約28%にとどまっている。婚姻状況別に顕著な差異はないものの、年代別にみると、年代が低いほど肯定する者が多い傾向にある。収入との関連がみられており、収入が増加するほど肯定する者は減少する傾向にある。

WEB調査図表3-1-2-45、図表資料5-2-1

#### ・悩みがあったら、気軽に誰かに相談するほうである

肯定する者は、男性全体の約17%にとどまっている。婚姻状況別には既婚者のほうがやや肯定する者が多い傾向にあり、未婚者では特に50歳代、60歳代において肯定する者が少なく1割に満たない。年代別にみると年代が低いほど肯定する者が増加する傾向にあり、年代が高くなるほど肯定する者は減少する傾向にある。なお、女性調査の結果においては、「夫には、悩みがあったら、気軽に誰かに相談してほしい」という意識は全体の約59%に上っており、男女の意識ギャップがみられる傾向にある。

グループインタビュー調査からは、他人に話しても解決しないことや、他人に相談したことによりプライドを傷つけられることなどから相談しないという意見が聞かれている。

既存調査では、「悩みや困りごとをひとりで抱え込んだ経験の有無」について、7割弱の男性が「ある」と回答しているなど、男性が他人に相談しない傾向が示されている。

WEB調査図表3-1-2-47、図表3-1-2-48、グループインタビュー調査(5)私的感情の抑制志向、

### (3) 男性の性別役割分担についての規範意識

男性の性別役割分担についての規範意識について、6項目を作成し検討している。なお、規範意識とは、性別役割分担に関する項目について、どの程度社会的に望ましいものと考えているかを質問するものである。

規範意識の中で、特に肯定する者が多かった項目は、「男は妻子を養うべきである」であり、全体の約65%が肯定している。また、「男は仕事における成功が重要である」「家事や子どもの世話は女性がするほうがよい」についても約5割が肯定している。「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」については、肯定する回答が約40%、否定する回答が約22%と肯定する回答のほうが多くなっているが、「どちらともいえない」が約38%となっており、賛否が明確ではない者も多くなっている。

なお、規範意識については男性の回答と女性の回答に顕著な差異はないが、「男は弱音を吐くべきではない」のみ、男性は約46%が肯定していたが女性は約18%となっており、男女差がみられている。

WEB 調査図表 3-1-2-50、図表 3-1-2-51

## 2. 男性の性別役割分担に関する意識に影響を及ぼす要因の検討

ここでは、男性の性別役割分担に関する意識に影響を及ぼす要因についての調査結果を紹介する。

### (1) 男性の性別役割分担に関する周囲の意識

親（養育者）の性別役割分担に関する意識（本人から見た養育者の意識）について

性別役割分担に関する意識について、親（養育者）がどのように考えていたかについて、質問している。その結果、「男は妻子を養うべきである」と考えていたという意識について、約69%が肯定しており、男性の規範意識よりも肯定される傾向にある。また、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」とする意識も約48%が肯定している。

WEB 調査図表 3-1-3-1

配偶者の性別役割分担に関する意識（本人から見た配偶者の意識）

既婚者を対象に、性別役割分担に関する意識について、配偶者がどのように考えているかを質問している。その結果、配偶者は「男は妻子を養うべきである」と考えているという意識について、約68%が肯定しており、男性の規範意識と同様に肯定される傾向にある。また、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」とする意識は約42%が肯定しているが、否定する者も約25%となっている。

WEB 調査図表 3-1-3-2

職場の性別役割分担に関する意識についての雰囲気（本人から見た職場の意識）

仕事をしている者を対象に、性別役割分担に関する意識について、職場の雰囲気としてどの程度あるか

を質問している。その結果、「男は妻子を養うべきである」という意識について肯定する者は、親や配偶者の意識よりも少なく、約 42%にとどまっている。また、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」とする意識も約 28%にとどまり、「どちらともいえない」が約 46%となっている。

WEB 調査図表 3-1-3-3

## (2) 男性の性別役割分担に関する意識に影響を及ぼす要因

男性の意識（「性別役割分担に関する意識」及び「性別役割分担についての規範意識」）に影響を及ぼす要因について、重回帰分析により検討している。要因については、「親の性別役割分担に関する意識」「配偶者の性別役割分担に関する意識」「職場の性別役割分担に関する意識」「年齢」「収入」「配偶者の収入」「労働時間」「学歴」「職種」を設定した。

WEB 調査図表 3-1-4-17

### 既婚・有職者の分析

#### 主導権役割志向

「配偶者の性別役割分担に関する意識」「親の性別役割分担に関する意識」「職場の性別役割分担に関する意識」の影響が主に示されており、配偶者や親、職場の性別役割分担に関する意識が高いほど、男性の主導権役割志向は高くなる（配偶者や親、職場の性別役割分担に関する意識が低いほど、男性の主導権役割志向は低くなる）傾向が示唆された。

#### 経済的役割志向

「配偶者の収入」「親の性別役割分担に関する意識」「収入」の影響が主に示されている。配偶者の収入が少ないほど経済的役割志向は高くなる（配偶者の収入が高いほど経済的役割志向は低下する）という関係にある。また、親の性別役割分担に関する意識が強くなるほど、経済的役割志向も強くなる（親の性別役割分担に関する意識が低くなるほど、経済的役割志向が低下する）傾向が示唆された。男性の収入が高くなるほど、経済的役割志向も高くなる（男性の収入が低くなるほど、経済的役割志向も低くなる）傾向が示唆された。

#### 日常生活依存志向

「配偶者の性別役割分担に関する意識」と「配偶者の収入」といった配偶者の要因が影響する様子が示されている。配偶者の性別役割分担に関する意識が強いと、男性の日常生活依存志向も強くなる（配偶者の性別役割分担に関する意識が低いと、男性の日常生活依存志向も低下する）傾向が示されている。また、配偶者の収入が少ないほど日常生活依存志向は高くなる（配偶者の収入が高いほど日常生活依存志向は低下する）という関係にある。

#### 社会的役割志向

「男性の年齢」「配偶者の性別役割分担に関する意識」「親の性別役割分担意識」「職種」の影響が示

されている。男性の年齢は、年齢が低いほど社会的役割志向は高い（年齢が高くなるほど、社会的役割志向は低下する）傾向が示されている。また、配偶者や親の性別役割分担に関する意識が強いほど、社会的役割志向も高くなる（配偶者や親の性別役割分担に関する意識が弱いほど、社会的役割志向は低下する）傾向が示唆された。また、職種については、「営業・販売の仕事」「管理的な仕事」「専門知識をいかした仕事」といった職種において、社会的役割志向が強い傾向が示唆された。

#### 私的感情の抑制志向

主に「男性の年齢」の影響が大きく、年齢が高くなるほど、私的感情の抑制志向は強くなる（年齢が低いほど私的感情の抑制志向は低くなる）傾向が示されている。

WEB 調査図表 3-1-4-18

#### 未婚・有職者の分析

未婚・有職者の分析については、配偶者に関する要因を除外して検討している。分析の結果、「主導権役割志向」は、「親の性別役割分担に関する意識」及び「職場の性別役割分担に関する意識」の影響がみられており、親や職場の性別役割分担に関する意識が強いほど主導権役割志向も強くなる傾向が示されている。また、「経済的役割志向」についても、「親の性別役割分担に関する意識」及び「職場の性別役割分担に関する意識」の影響がみられ、親や職場の性別役割分担に関する意識が強いほど経済的役割志向も強くなる傾向が示されている。また、「社会的役割志向」については、「男性の年齢」の影響が強く、年齢が低いほど社会的役割志向が強い傾向がみられている。社会的役割志向については、「親の性別役割分担に関する意識」及び「職場の性別役割分担に関する意識」の影響がみられており、親や職場の性別役割分担に関する意識が強いほど社会的役割志向も強くなる傾向が示されている。このように、未婚・有職者の分析結果からは、男性の性別役割分担に関する意識が、特に親や職場から影響を受けやすい可能性が示唆された。

WEB 調査図表 3-1-4-19

#### 規範意識に及ぼす影響の分析

男性の性別役割についての規範意識に及ぼす影響について、男性の性別役割分担に関する意識と同じ要因を設定して検討している。その結果、既婚・有職者の分析においては、「配偶者の意識」「職場の雰囲気」「親の意識」が影響を及ぼしていた。他方、未婚・有職者においては、「職場の雰囲気」「親の意識」が影響を及ぼしていた。

このことから、男性の性別役割分担についての規範意識に影響を及ぼす要因について、既婚者においては、配偶者の意識の影響が強い様子が示されており、婚姻状況にかかわらず影響の強い要因は職場の雰囲気であり、その影響力は親の意識よりも強い傾向が示されている。

WEB 調査図表 3-1-4-20

図表 2-2-1 男性の性別役割分担に関する意識に影響を及ぼす主な要因の一覧

	影響を及ぼす要因 (既婚・有職者の分析)	影響を及ぼす要因 (未婚・有職者の分析)
主導権役割志向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配偶者の意識 (+)</li> <li>・親の意識 (+)</li> <li>・職場の意識 (+)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の意識 (+)</li> <li>・職場の意識 (+)</li> </ul>
経済的役割志向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配偶者の収入 (-)</li> <li>・親の意識 (+)</li> <li>・男性の収入 (+)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場の意識 (+)</li> <li>・親の意識 (+)</li> </ul>
日常生活依存志向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配偶者の意識 (+)</li> <li>・配偶者の収入 (-)</li> </ul>	
社会的役割志向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の年齢 (-)</li> <li>・配偶者の意識 (+)</li> <li>・親の意識 (+)</li> <li>・管理的な仕事 (+)</li> <li>・営業・販売の仕事 (+)</li> <li>・専門知識をいかした仕事 (+)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の年齢 (-)</li> <li>・親の意識 (+)</li> <li>・職場の意識 (+)</li> </ul>
私的感情の抑制志向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の年齢 (+)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場の意識 (-)</li> </ul>
性別役割分担についての規範意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配偶者の意識 (+)</li> <li>・職場の意識 (+)</li> <li>・親の意識 (+)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場の意識 (+)</li> <li>・親の意識 (+)</li> </ul>

図表 3-1-4-18、3-1-4-19、3-1-4-20 において 0.1%水準で有意であった要因（\*\*\*の印がついた項目）について影響度の高い順（標準編回帰係数の大きい順）に記載している。

図表で (+) となっているものは正の影響を、(-) となっているものは負の影響を表している。

(+) の例：〔主導権役割志向〕配偶者の性別役割分担に関する意識が高くなるほど男性の主導権役割志向も高くなる。

(-) の例：〔経済的役割志向〕配偶者の収入が高くなるほど男性の経済的役割志向は低くなる。

### 3．日常生活の意識・行動との関連

ここからは、男性の性別役割分担意識に関する志向が日常生活の意識・行動にどのように関連しているのか、また、日常生活の意識・行動と属性との関連についての調査結果を紹介する。

#### (1) 家事や育児について

主に「主導権役割志向」と「日常生活依存志向」が関連している様子が示されている。家事・育児をほとんどしない者は頻繁にする者に比べてそのような意識が強い様子が示されている。また、配偶者の就業形態が関連しており、配偶者が「正社員」や「公務員・公社等の正規職員」の場合には、家事・育児を頻繁にする傾向にある。また、配偶者が不在時の生活困難度にも「主導権役割志向」と「日常生活依存志向」が関連しており、配偶者がいないと生活できない者はそのような意識が強い傾向にある。

#### ・家事（買い物や洗濯物を干すこと）

「主導権役割志向」と「日常生活依存志向」が関連している可能性があり、家事をほとんどしない男性は、そのような意識が強い傾向がみられている。また、既婚者の場合に配偶者の就業形態との関連がみられており、配偶者が「正社員」や「公務員・公社等の正規職員」の場合には、家事を頻繁にする傾向にある。

WEB 調査図表 3-1-5-1、図表 3-1-5-4、図表 3-1-5-6、図表 3-1-5-8、図表 3-1-5-9

#### ・既婚男性の妻が不在時の生活の困難度

「主導権役割志向」と「日常生活依存志向」が関連している可能性があり、妻がいないと生活に困る男性は、そのような意識が強い傾向にある。また、配偶者の収入との関連もみられており、配偶者の収入が高くなるほど、妻が不在でも困らず暮らせるようになる傾向が示されている。

WEB 調査図表 3-1-5-15、図表 3-1-5-18

#### ・子どもの世話の頻度

「主導権役割志向」や「日常生活依存志向」が関連している可能性があり、子どもの世話を頻繁にする男性は、そのような意識が低い傾向が示唆された。また、「社会的役割志向」との関連もみられており、子どもの世話を頻繁にする男性は、社会的役割意識が強い傾向が示されている。配偶者の就業形態別にみると、配偶者が「自営（農林漁業）」「正社員」「公務員・公社等の正規職員」の場合には、子どもの世話を頻繁にする者が多い傾向にある。なお、配偶者が「パートタイマー等の非正規雇用者」と「専業主婦」では、子育ての頻度はほとんど変わらない。

WEB 調査図表 3-1-5-19、図表 3-1-5-22

#### ・育児休業取得経験

性別役割分担意識に関する志向とは顕著な関連はみられていない。また、男性の年代や収入が関連している可能性が示唆され、年代が高くなるほど、また、収入が高くなるほど取得しようと思わなか

った者が増加する傾向にある。また、収入が低いほど、取得したかったができなかった者が増加する傾向も示されている。

グループインタビュー調査からは、育児休業制度を利用すると他の社員の負担となり職場に迷惑をかけるため取得できないといった意見や、取得したいと言えるような雰囲気がないこと、また取得後に必要な人材として評価してもらえぬかどうか不安という意見も聞かれていた。

WEB 調査図表 3-1-5-29、図表 3-1-5-30、図表 3-1-5-31、  
グループインタビュー調査（6）育児休業制度の利用

#### ・育児休業取得希望

「主導権役割志向」や「日常生活依存志向」「社会的役割志向」が関連している可能性があり、育児休業を取得したい男性は、そのような意識が低い傾向が示唆された。また、婚姻状況別では未婚者に取得希望者が多く、男性の収入が高くなるほど取得希望者は減る傾向が示されている。また、職種は「営業・販売の仕事」や「サービスの仕事」において、育児休業の取得希望者が多い傾向が示されている。

WEB 調査図表 3-1-5-34、図表 3-1-5-35、図表 3-1-5-36、図表 3-1-5-37

#### ・家事の頻度と育児の頻度との関連

家事と育児の頻度について、関連を分析した結果からは、特に「買い物の頻度」と「家族の洗濯物を干す頻度」と「子どもの世話の頻度」にそれぞれ関連がある傾向が示されている。買い物や洗濯物を干すことをする男性は、子どもの世話もする傾向にあることが示唆される結果である。

WEB 調査図表 3-1-6-1、図表 3-1-6-2

#### ・家事の頻度と妻不在時の生活困難度との関連

既婚者において、買い物や洗濯物を干すことを頻繁にする男性とほとんどしない男性を比較したところ、妻が不在のときの生活困難度との関連がみられており、家事を頻繁にする男性は、妻が不在でも生活には困らない傾向にある。

WEB 調査図表 3-1-6-3、図表 3-1-6-4

### （2）仕事や経済的問題について

全般的に性別役割分担意識に関する志向とは顕著な関連はみられていない。このようなことについては、収入や労働時間が関連している可能性があり、収入が低くなるほど経済的な問題や仕事をやめたいと思ったことがある者が増加する傾向が示されている。また労働時間が長くなると仕事をやめたいと思ったことがある者が増加する傾向が示されている。

#### ・経済的な不安や問題の有無

性別役割分担意識に関する志向とは顕著な関連はみられていない。婚姻状況による差異がみられており、未婚者の 30 歳代～50 歳代において不安や問題を強く感じている者が多い傾向にある。また収



入との関連がみられ、男性の収入が高くなるほど不安や問題がある者が減少する傾向が示されている。

WEB 調査図表 3-1-5-39、図表 3-1-5-41、図表 3-1-5-43

・仕事をやめたいと思ったこと

性別役割分担意識に関する志向とは顕著な関連はみられていない。収入や労働時間が関連している可能性があり、収入が低くなるほど、また、労働時間が長いほど仕事をやめたいと思ったことがある者が増加する傾向が示されている。

WEB 調査図表 3-1-5-44、図表 3-1-5-46、図表 3-1-5-47

(3) 相談について

「社会的役割志向」や「私的感情の抑制志向」が関連している可能性があり、他人に相談したい悩みや困りごとがある者は、社会的役割志向が強く、私的感情の抑制志向が低い傾向が示されている。相談内容は、主に仕事関連の内容が中心である。

・他人に相談したい悩みや困りごとの有無や、悩みや困りごとを実際に相談したかどうか

「社会的役割志向」や「私的感情の抑制志向」が関連している可能性があり、他人に相談したい悩みや困りごとがある者は、ない者に比べて社会的役割志向が強く、私的感情の抑制志向が低い傾向が示されている。また、実際に相談したかどうかについても、同様の傾向が示されており、相談した者はしなかった者に比べ、社会的役割志向が強く、私的感情の抑制志向が低い傾向が示されている。

WEB 調査図表 3-1-5-49、図表 3-1-5-53

・相談したい悩みや困りごとの内容

「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」「生き方、暮らし方など」「家計、借金、相続など」「健康、病気、障害など」「メンタルヘルス、ストレス」といった内容が多くなっている。

WEB 調査図表 3-1-5-57

(4) 「何もやる気がしない」「死にたい」などと思ったことについて

「何もやる気がしない」「死にたいと思ったこと」については、「経済的役割志向」が関連している可能性が示唆され、「よくあった者」は「全くなかった者」に比べてそのような意識が低い傾向が示されている。また、収入や労働時間との関連がみられており、収入が低い場合や労働時間が長い場合に「よくあった者」が多い傾向が示されている。また、孤独だと感じている者は未婚者に多い傾向がみられている。

・孤独だと感じたこと、何もやる気がしないこと、死にたいと思ったこと

「孤独だと感じたこと」には、性別役割分担意識に関する志向とは顕著な関連はみられていないが、婚姻状況が関連している傾向がみられており、未婚者に孤独だと感じる人が多い傾向が示されてい

る。

また、「何もやる気がしないと感じたこと」や「死にたいと思ったこと」には「経済的役割志向」が関連している可能性が示唆され、「よくあった」と回答した者はそのような意識が低い傾向が示されている。また、属性要因として、収入や労働時間が関連している傾向がみられており、収入が低くなると、「よくあった」と感じる者が増加する傾向にある。また、労働時間との関連がみられており、労働時間が長くなると「何もやる気がしないこと」「死にたいと思ったこと」が「よくあった」と感じる者が増加する傾向にある。

既存調査から、気分障害の患者数は、男性の30歳代～50歳代において増加する傾向が示されている傾向にあった。また、その年代の自殺の理由としては、「経済・生活問題」が多くなっている。男性は経済的役割志向が高く、30歳代～50歳代は結婚や子育て等の経済的問題がおきやすい年代でもあり、経済的役割志向が「何もやる気がしない」「死にたい」などと思ったことに関連する可能性がある。

WEB調査図表3-1-5-63、図表3-1-5-64、図表3-1-5-67、図表3-1-5-69、図表3-1-5-70、図表3-1-5-71、  
図表3-1-5-73、図表3-1-5-74、既存調査図表3-3-2-15、図表3-3-2-20

#### ・「何もやる気がしない」「死にたい」などと思ったこととの関連

「孤独だと感じたこと」「何もやる気がしない」「死にたいと思ったこと」「仕事をやめたいと思ったこと」の4項目の間には、それぞれ関連がある様子が示されており、このような意識は相互に関連している様子が示されている。

WEB調査図表3-1-6-5

#### (5) 夫婦や恋人間のコミュニケーションについて

「夫婦の会話の頻度」については、「主導権役割志向」「日常生活依存志向」「私的感情の抑制志向」が関連している可能性が示唆され、「よく話す者」は「全く話さない者」に比べてそのような意識が低い傾向が示されている。また、「夫婦の会話の頻度」は、日常生活の意識・行動との関連がみられている。「配偶者等への行為(なぐったり、声を荒げたりしたこと)」については、主に「主導権役割志向」が関連しており、身体的行為(なぐったり、けったりしたこと)については特に「日常生活依存志向」も関連している傾向が示されている。

#### ・夫婦間の会話の頻度

「主導権役割志向」「日常生活依存志向」「私的感情の抑制志向」が関連している可能性があり、配偶者とよく話す男性は、会話が全くない者と比べてそのような意識が低い傾向が示されている。また、年代別の分析では、年代が低いほどよく話す傾向が示されており、その傾向は、女性の調査からも同様の結果が示されている。労働時間については、60時間未満までは、労働時間が増加するほどよく話す者が増加する傾向にある。

また、夫婦の会話の頻度は、日常生活の意識・行動との関連がみられており、夫婦の会話の頻度が高い場合は、会話が全くない者に比べて「孤独感」「何もやる気がしないと感じたこと」「死にたいと

思ったこと」といった気持ちが低下する傾向がみられている。また、夫婦の会話の頻度が高い場合は、会話がない者に比べて「子どもの世話の頻度」や「定年後の楽しみ・計画」がある者が増加する傾向も示されている。

WEB 調査図表 3-1-5-75、図表 3-1-5-77、図表 3-1-5-78、図表 3-1-6-6～図表 3-1-6-10

・配偶者等への行為（なぐったり、声を荒げたりしたこと）

身体的行為（なぐったり、けったりしたこと）には「主導権役割志向」「日常生活依存志向」「社会的役割志向」「私的感情の抑制志向」が関連している可能性があり、よくあったと回答している者に主導権役割や日常生活依存、社会的役割といった志向性が強い傾向が示唆された。また、よくあったと回答している者に私的感情の抑制の志向性が低い傾向も示されていた。

精神的行為（声を荒げたり、どなったりしたこと）には、「主導権役割志向」「社会的役割志向」が関連している可能性があり、よくあったと回答している者に、そのような志向性が強い傾向が示唆された。

また、夫婦の会話の頻度は、配偶者等への行為に関連しており、夫婦の会話の頻度が低い場合は、よく話す者に比べて、身体的行為や精神的行為がよくあったとする者が多い傾向がみられている。

WEB 調査図表 3-1-5-85、図表 3-1-5-88、図表 3-1-6-11

（6）定年後の希望について

「定年後や老後の楽しみ・計画」については、「社会的役割志向」が関連している可能性が示唆され、「たくさんある者」は「ほとんどない者」に比べてそのような意識が高い傾向が示されている。また、「老後に一緒にいたい人」や「介護されたい人」は、男女差がみられており、「配偶者」の回答は男性に多い傾向が示されている。

・定年後や老後の楽しみ・計画の有無

「社会的役割志向」が関連している可能性があり、老後の楽しみ・計画がたくさんあると回答した者は、ほとんどない者に比べて社会的役割志向が強い傾向にある。また、既婚者の場合に夫婦間コミュニケーションとの関連がみられており、夫婦でよく話す者は、老後の楽しみ・計画がたくさんある傾向にあり、必要以外話さないと回答した者は、約 49%がほとんどないと回答している。

グループインタビュー調査からは、老後の生活の充実に向けて、妻や友人を大切にすることや、趣味を持つことの重要性が指摘されていた。

WEB 調査図表 3-1-5-94、図表 3-1-6-10、グループインタビュー調査（7）老後の過ごし方

・老後に一緒にいたい人や介護されたい人

誰と一緒にいたいのか、誰に介護されたいのかについては男女で差がみられており、男性は女性の結果に比べて、「配偶者と一緒にいたい」「配偶者に介護されたい」とする回答率が高い傾向にある。

WEB 調査図表 3-1-5-98、図表 3-1-5-99、図表 3-1-5-100、図表 3-1-5-101

## (7) 飲酒の習慣について

「社会的役割志向」「私的感情の抑制志向」が関連している可能性がみられ、「お酒を飲むまいと思っても飲んでしまうこと」や「飲まないと眠れないこと」については、「主導権役割志向」が関連している可能性がみられている。

### ・飲酒の習慣

「社会的役割志向」「私的感情の抑制志向」が関連している可能性があり、習慣的に飲む人は飲まない人に比べ、社会的役割志向が強い傾向や、私的感情の抑制志向が低い傾向が示されている。また、年代による関連がみられており、50歳代までは年代が高くなるとともに習慣的に飲む者が増加する傾向がみられている。

WEB 調査図表 3-1-5-102、図表 3-1-5-103

### ・お酒を飲むまいと思っても飲んでしまうことや飲まないと眠れないこと

「主導権役割志向」が関連している可能性があり、経験がある者となない者で比較すると、経験がある者に主導権役割志向が強い傾向が示されている。また、労働時間による関連がみられており、労働時間が50時間以上になると「よくあった」と回答する者がやや増加する傾向がみられている。

WEB 調査図表 3-1-5-107、図表 3-1-5-110

## (8) 日常生活の意識・行動との関連のまとめ

ここからは、男性の日常生活の意識・行動との関連について、調査結果を概観し、5つの志向別に検討する。

### 主導権役割志向

特に「家事・育児」「夫婦コミュニケーション」「飲酒」といったテーマについて、関連がある傾向が示されている。まず、家事や育児を頻繁にする男性は、ほとんどしない男性に比べて主導権役割志向が低い傾向にある。また、既婚者について、妻不在時の生活困難度が高い男性は、困難度が低い男性に比べて主導権役割志向が強い傾向にあり、夫婦の会話がほとんどない男性は、夫婦の会話の頻度が高い男性に比べ、主導権役割志向が強い傾向にある。また、配偶者等への行為（なぐったり、声を荒げたりしたこと）についても関連がみられており、そのような経験のある者は、経験のない者に比べて主導権役割志向が強い傾向が示されている。最後に飲酒についてであるが、お酒を飲むまいと思っても飲んでしまう・飲まないと眠れないことがある者は、そのような経験がない者に比べ主導権役割志向が強い傾向が示されている。

### 経済的役割志向

特に、「何もやる気がしない」「死にたい」と思ったことに関連がある傾向が示されている。何もやる気がないと感じたことや死にたいと思うことについて、そのようなことが全くない男性は、よくあった男性に比べて経済的役割志向が強い傾向にある。

### 日常生活依存志向

特に「家事・育児」「夫婦コミュニケーション」といったテーマについて、関連がある傾向が示されている。まず、家事や育児について、ほとんどしない男性は、頻繁にする男性に比べて日常生活依存志向が高い傾向にある。また、既婚男性について、妻不在時の生活困難度が高い男性は、困難度が低い男性に比べて日常生活依存志向が強い傾向にあり、夫婦の会話がほとんどない男性は、夫婦の会話の頻度が高い男性に比べ、日常生活依存志向が強い傾向にある。さらに、配偶者等への行為（なぐったり、声を荒げたりしたこと）についても関連がみられており、特に身体的行為（なぐったり、けったりしたこと）のある者は、ない者に比べて日常生活依存志向が強い傾向が示されている。

### 社会的役割志向

特に「育児」「相談」「配偶者等への行為（なぐったり、声を荒げたりしたこと）」「定年後の楽しみ」といったテーマについて、関連がある傾向が示されている。まず、子育てであるが、頻繁にする男性は、ほとんどしない男性に比べて社会的役割志向が強い傾向にある。また、相談について、他人に相談したい悩みがあった者は、そのようなことがなかった者に比べ、社会的役割志向が強い傾向にあり、悩みを実際に相談した者は、相談しなかった者に比べ社会的役割志向が強い傾向にある。また、配偶者等への行為（なぐったり、声を荒げたりしたこと）について加害体験のある者はない者に比べて社会的役割志向が強い傾向にある。さらに、定年後の楽しみについて、たくさんある者は、ほとんどない者に比べて社会的役割志向が強い傾向にある。

### 私的感情の抑制志向

特に「夫婦コミュニケーション」「配偶者等への行為（なぐったり、声を荒げたりしたこと）」「相談」「飲酒」といったテーマについて、関連がある傾向が示されている。まず、夫婦のコミュニケーションであるが、会話がほとんどない男性は、会話の頻度が高い男性に比べ、私的感情の抑制志向が強い傾向にある。配偶者等への身体的行為（なぐったり、けったりしたこと）について加害体験のない者はある者に比べて私的感情の抑制志向が強い傾向にある。また、相談について、他人に相談したい悩みがなかった者は、そのようなことがあった者に比べ、私的感情の抑制志向が強い傾向にあり、悩みを実際に相談しなかった者は、相談した者に比べ私的感情の抑制志向が強い傾向にある。最後に飲酒について、飲酒をしない者はする者に比べ私的感情の抑制志向が強い傾向にある。

## 4 . まとめ

本調査から、男性の性別役割分担意識に関する5つの志向性があることが明らかにされ、それぞれが日常生活の意識・行動と関連している様子が示されていた。

### 主導権役割志向

主導権役割志向は、家事・育児や夫婦コミュニケーションに関連する結果が示唆されており、家事・育児をしない男性や夫婦コミュニケーションがほとんどない男性は、主導権役割志向が高い傾向が示されていた。また、配偶者等への行為（なぐったり、声を荒げたりしたこと）の加害経験のある者も主導権役割意識が強い傾向にある。なお、女性調査からは、男性の主導権役割に関する項目について否定的な意見が強い項目もあり、男女の意識ギャップが生じやすい志向性と考えられる。このようなことから、主導権役割志向の強さは、男女の意識ギャップが生じやすく、家事・育児、夫婦の会話、配偶者等への行為といった行動面に関連し、男女間の円滑なコミュニケーションを阻害する可能性がうかがわれる結果である。

### 日常生活依存志向

日常生活依存志向は、家事・育児や夫婦コミュニケーション、定年後の楽しみに関連する結果が示唆されており、家事・育児をしない男性や夫婦コミュニケーションがほとんどない男性、定年後の楽しみや計画がほとんどない男性に高い傾向にあった。日常生活依存志向は、男性よりも女性に肯定的な傾向が示されており、さらに、要因分析から配偶者の影響が強かったことから、女性の意識が男性の日常生活の依存傾向に影響を及ぼす可能性が示唆される結果である。

### 私的感情の抑制志向

私的感情抑制志向は、夫婦コミュニケーションや相談、定年後の楽しみに関連する結果が示されており、会話がほとんどない男性や、悩みを相談しない男性、定年後の楽しみがほとんどない男性には、私的感情の抑制志向が強い傾向が示されていた。このように、男性が私的な感情を開示しないことが、夫婦間の会話の減少や、他者への相談の減少、老後の楽しみの減少に関連する様子が示されており、日常生活において困難なことが生じたり、定年や老後という、それまでの役割に劇的な変化が生じたりした際に、行き詰まりを感じやすい可能性が示唆される結果である。

### 経済的役割志向

経済的役割志向を構成する項目については、男女ともに肯定的な傾向にあったが、特に「家族のために仕事は継続しなければいけない」「一家の大黒柱は自分（夫）」という意識については、男女ともに肯定的な傾向が顕著な項目であった。なお、経済的役割志向は、何もやる気がしないと感じたことや定年後の楽しみに関連する傾向が示されており、何もやる気がしないことがよくあった者や定年後の楽しみがほとんどない者は、経済的役割志向が低い傾向にあった。

## 社会的役割志向

育児、相談、定年後の楽しみに関連する結果が示されており、育児をする男性や相談をする男性、定年後に楽しみのある男性は、社会的役割志向が強い傾向が示されている。社会的役割志向は、仕事や育児、定年後の楽しみ、相談といった行動に関連する傾向が示されており、日常生活において積極的に行動する様子がうかがえる結果である。一方、配偶者等への行為（なくったり、声を荒げたりしたこと）がある男性は、社会的役割志向が強い傾向も示されている。

このように男性の性別役割分担に関する意識に影響を及ぼす要因としては、特に配偶者や職場、親の影響があることが示されていた。性別役割分担に関する意識や性別役割分担についての規範意識には、周囲の性別役割分担に関する意識が影響を及ぼしている。このことは、男性の性別役割分担に関する意識が、配偶者の意識や職場の雰囲気、親の意識によって、変化する可能性を示唆するものである。

図表 2-4-1 男性の性別役割分担意識に関する志向・規範意識と周囲の意識、属性、日常生活の意識・行動との関連モデル図



